

公園内で見られる植物

写真は1月7日（日）
自然観察会で見られた
植物などです



マンリョウ (ヤブコウジ科)

冬に付ける光沢のある赤い実は緑色の葉とのコントラストがとても美しいですね。万両という縁起の良い名がついていますが、庭にある園芸種を見慣れている私は、山にあるとヤブコウジ(十両)のイメージが強く間違える事があります。特に茎が短く実の付きが少ないものはヤブコウジに見えます。でもよく見ると葉の鮮やかさや厚み、大きさや形状が違いますね。



スイカズラ (スイカズラ科)

寒い冬にも緑の葉っぱを茂らせて周りの木に右巻きに絡みついています。日本原産の植物で生薬として、花は金銀花 (キンギンカ)、葉の付いた茎は忍冬 (ニンドウ) と言い抗菌作用があります。



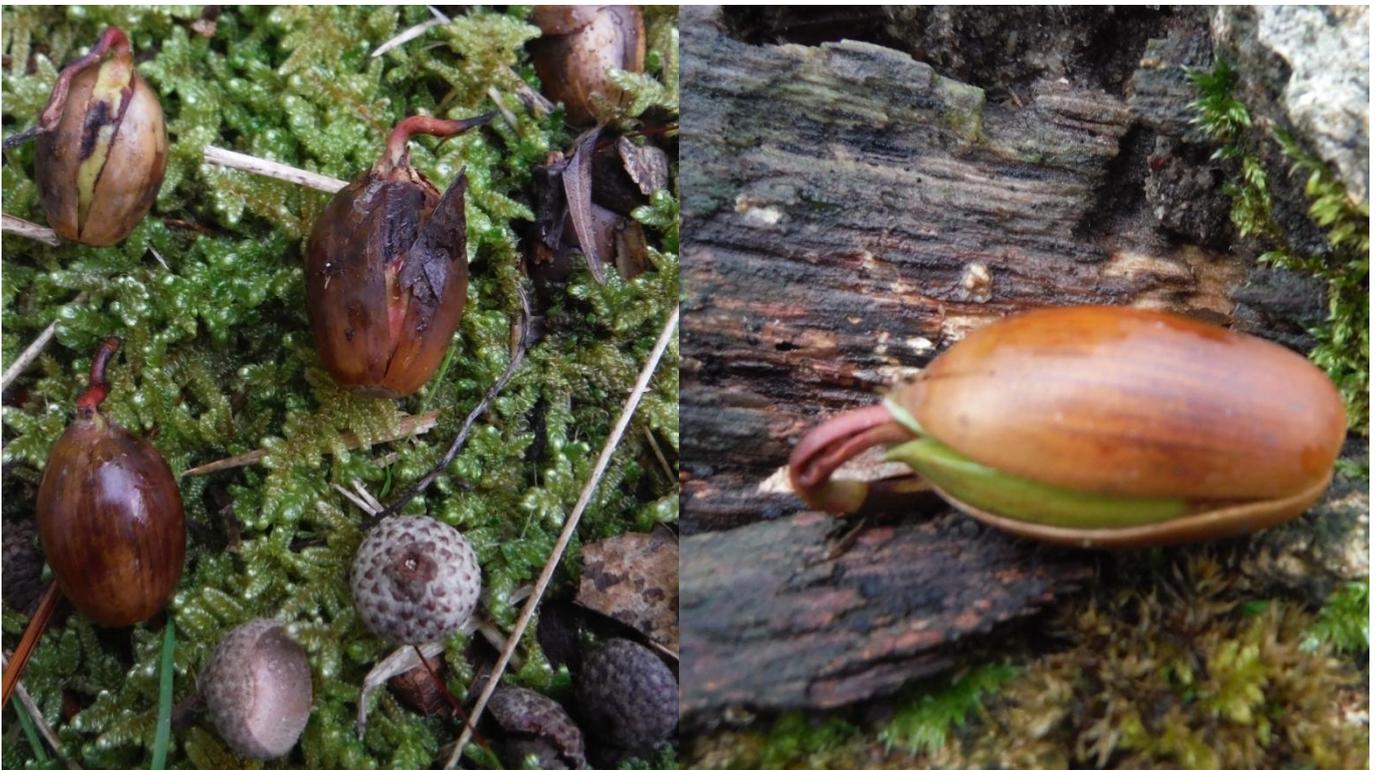
マサキ (ニシキギ科)

葉は冬でも光沢のある緑色をしています。花は黄緑色で小さく目立ちませんが、果実は橙色の種皮で覆われている為、良く目立ちます。観賞用の斑入りの入ったマサキを生け垣に植えられているそうです。名前の由来は、葉が常緑なので、真青木 (まさおき) からの転訛という説があるそうです。漢方ではマサキを杜仲の代用として和杜仲 (わのとちゅう) の名で樹皮を強壮薬に使っているそうです。



ウラジロノキの実 (バラ科)

名前の由来は葉の裏側が白いことからきています。実は熟すと赤くなりリンゴやナシのような味で生で食べられるそうです。沢山落ちていたのですが、エサの少ない冬場に鳥は食べないのでしょうか？鳥と人間では味覚が違うのかな？実がちょっと大きいから口に入りにくいのかな？拾って食べませんでした。ナシ状の実の先端に萼の残骸が残っていました。



ヨナラの実 (ブナ科)

沢山ドングリが落ちていました。殆ど芽が出ていて、びっくり。枯れ木の上に落ちた実も発芽していました。たくましいですね。ヨナラはシイタケの原木としてよく使いますが、葉や果実・樹皮を煮だして染色にも使えるそうです。



コウヤボウキの種 (キク科)

今頃、何の綿毛だろうと近づいてみるとコウヤボウキの種でした。花びらが乾燥して箒の先のように見えます。葉を全て落とし枝先にちょこんと付いています。風に乗って飛んで行こうとしているのでしょうか、今日は生憎の雨模様なので、足踏みしています。名前の由来は高野山で、枝を箒の材料にしたことから付いたそうです。



タニウツギ (スイカズラ科)

ウツギとは中空の意味ですが、正確には中に柔らかいスポンジ状のものが詰まっています。方言で呼ばれることが多く、田植えの時期に咲くので「タウエバナ」「アゼヌリバナ」、鯛が取れる頃に咲くので、「イワシバナ」、役に立たない木で「ズクナシ」、家の中に入ると火事になる「カジバナ」。沢山名前が付けられていますが、古くから身近にあり季節を告げる花として親しまれてきました。